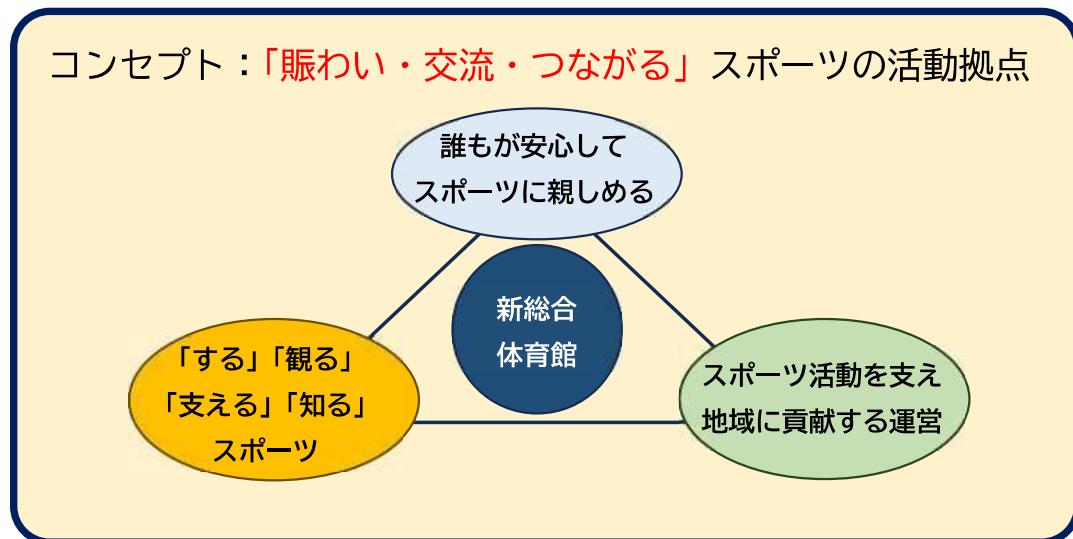


6 新総合体育館の基本コンセプト

6.1 基本コンセプト

現体育の抱える課題を踏まえ、新総合体育館のコンセプトを次のように定めます。



(1) 誰もが安心して利用できるスポーツの活動拠点

- ダイバーシティ、インクルージョンの理念にもとづき、体力や年齢、障がいの有無、運動・スポーツを実施する目的などに依らず、誰もが安心して、自由に、スポーツに親しめる施設を目指します。
- 地域に根付き、スポーツを通じて市への愛着と誇り（シチズンシップ）の醸成を図れる施設を目指します。
- 市民及び広域的な利用団体の連携・協働を深めることができ、活動種目の垣根を越えて「市民がつながる場」としての施設を目指します。
- スポーツに限らず、文化芸術などの多様な活動を支える機能を持った施設を目指します。

(2) 長期的にスポーツ活動を支え、地域に貢献する施設運営

- 地域のスポーツ団体や指導者等と連携した運営を目指します。
- 施設を活かしたイベント等から得られる収入を維持管理、運営に活かすなどマネタイズを意識した運営を図り、行政支出を抑えることを目指します。
- デジタル（ICT）技術を活かし市民ニーズや施設の稼働状況、維持管理費の見える化等を促し、データ活用による効果的な運営を目指します。
- 施設の維持管理や運営面等における重複や非効率な事項は絶えず見直しアップデートさせることで、効率性・効果性の向上を目指します。
- 設計・建設段階から運営の考え方や方法を反映させた施設整備を図ることで、高いパフォーマンスが発揮できる運営を目指します。
- 省エネルギー型の設備の導入や再生可能エネルギーの導入を図り、SDGs 等の社会的ニーズに応えることができる施設を目指します。
- 社会体育施設としての役割を果たすだけでなく、広義な意味で地域社会に貢献できる運営を目指します。

(3)「する」「観る」「支える」「知る」スポーツの活動拠点

- 他のスポーツ施設との連携・集約による相乗効果を発揮し、スポーツの活動拠点としての「拠点機能」を持った施設を目指します。
- ライフスタイルや価値観の多様化とともに、生活の豊かさやクオリティ・オブ・ライフに対する意識が高まる中、体育機能だけでなく多様な機能を持った施設を目指します。
- 市民・利用者が集い、スポーツを観て楽しむことのできる施設を目指します。
- 運営主体者の考え方や運営方法を把握し、市民・利用者がスポーツに親しむことを支える運営が可能な施設を目指します。
- 部活動改革など、スポーツを取り巻く状況が変化する中においても、スポーツの機会を提供し、スポーツ実施率の向上や競技力の向上が図れる施設を目指します。
- 本格的な競技・スポーツに取り組むアスリートの育成パスウェイ（道筋）と、アスリート思考の人に安定した活動環境を提供できる施設を目指します。
- SNS やメディア、デジタルなどを用いたスポーツの情報発信を行い、スポーツを知る機会を増やせる情報発信拠点となる施設を目指します。

6.2 基本的な施設整備方針

基本コンセプトをもとに、新総合体育館における基本的な整備方針を以下の通り定めます。

(1)維持管理・運営の基本的なあり方

建設後数十年間に亘って利用される新総合体育館については、持続的な運営方法の確立が重要な課題となります。このため市は、官民連携手法を用いて民間事業者のノウハウを活用した運営体制を築くことで、コンセプト内容の実現を図ることが望ましいと考えます。

スポーツへの親しみやすさや施設の利用しやすさの向上、地域のスポーツ団体や指導者等との連携、多様なイベントの開催、多様な利用者へのプログラム提供等に取り組みます。

近年事例が増えている DB0 や PFI（BT0）、Park-PFI 等の事業手法の導入により、飲食施設や子育て支援施設など魅力あるサービスを提供することで施設の収益性の向上を図り、スポーツ活動の拠点施設として「賑わい・交流・つながり」の創出に寄与できるような柔軟な運営に努め、社会体育施設としての役割を果たすだけでなく、広義な意味で地域社会に貢献できる運営が重要だと考えます。

また、維持管理面では、新総合体育館のみならず周辺施設も含めた包括的管理の検討など、スケールメリットを発揮した効率的・効果的な維持管理とコストの縮減を目指します。

さらには、PDCA の観点から適切な評価と改善を図ることで、よりよい維持管理・運営の実施に繋げていくことが大切です。

(2)導入機能の在り方

基本コンセプトを具現化するため新総合体育館に求められる機能を下記の通り整理しました。
なお、各機能の詳細な検討については基本計画において実施します。

総合体育館として 持つべき体育機能	スポーツの活動拠点として、多様なイベントにも対応可能な機能、諸室、設備を確保するとともに、駐車場、ユニバーサルデザイン、環境配慮、防災を導入します。また、市内スポーツ施設の連携・集約化も想定します。
新たに求められる 多様な機能	多様化する利用者ニーズ、社会的ニーズ等を踏まえ、コミュニティ機能、子育て機能、健康増進・リハビリ機能、文化芸術活動等の多様な活動を支える機能、情報発信機能などの機能を導入します。

(3)想定される施設規模

市民の利用実態やニーズ、スポーツ団体等の日常的活動（市内に点在する小中学校体育館で実施し続けることができる）の状況を踏まえつつ、誰もが身近にスポーツを楽しめる環境を整え、多様なイベント運営を可能とし、基本コンセプトを具現化させられる規模の確保が必要です。

一方で、人口や税収の将来的な減少を見据え、財政的に将来世代の負担とならないような施設整備が求められます。上記のような観点から、アンケート調査やスポーツ団体へのヒアリング、市民ワークショップ等での意見を踏まえ、知多半島圏内の屋内競技大会が開催できる施設規模を想定します。

現体育館の規模や他団体の総合体育館整備事例を参考に検討した結果、新総合体育館の施設規模としては、バスケットボールコート3面分を確保可能なメインアリーナ、同じくバスケットボールコート1面分を確保可能なサブアリーナ、その他器具庫等の諸室を含め、総延床面積 9,000㎡程度と見込みます。

ただし、官民連携手法の導入に伴う事業者提案等により、延床面積は変動する可能性があり、具体的な検討は基本計画において実施します。